**令和６年度第１回大阪府****環境放射線評価会議　議事録**

日時：令和６年８月６日（火）15：00～16：15

場所：大阪府災害対策本部会議室（新別館北館１階）

**１．開会**

**２．議事**

**（１）委員長の選任等について**

**〇事務局（司会）：**令和６年３月31日をもちまして、名古屋大学大学院の山澤委員長が辞任されましたので、後任として福島大学環境放射能研究所の平尾委員にご就任いただいております。

**〇事務局（司会）：**議題１の大阪府環境放射線評価会議の委員長の選任について、委員の皆様のご意見をお伺いしたいと思います。

**〇小川委員：**ご参加されている村田教授が環境エネルギー工学の専門のスペシャリストであり、原子力・核融合を含めた安全管理・研究教育を幅広く推進されている方であるので、村田先生を委員長に推薦したいと考えています。

**〇事務局（司会）：** 皆様、いかがでしょうか。

※異議なし

**〇事務局（司会）：** では、村田先生お引き受けいただけますでしょうか。

**〇村田委員長：**はい、ご推薦いただきありがとうございます。どうぞよろしくお願いいたします。

**〇事務局（司会）：**これからの議事については、村田委員長にお願いしたいと思います。

**（２）令和５年度環境放射線監視結果について**

**【質疑応答】**

**〇青野委員：**スライド13ページでは大気浮遊じん中の、それからスライド16ページには排水中のセシウムの量が表示されていますが、検出下限値以下という表記は問題ありませんが、例えばスライド16ページであれば1.7っていう数値があるので、その下に括弧書きで、検出下限値がどれぐらいとかっていうものを示していただければ、一般の方が見た時に、この出ている数値が検出下限値よりもどの程度高いものか分かることで安心材料になると思うので、ご検討いただければと思います。

**〇事務局：**セシウム137の分析の場合は、検出目標値は設定しています。ただ、検出下限値は分析の都度変化するので、大まかな数値は記載できますが、検出目標値を記載するべきか、検出下限値はこれぐらいですと記載するべきか、判断に迷うところがあるので、検討して、どちらの方法で記載するかを考えたいと思います。

**〇青野委員：**よろしくお願いいたします。

**〇村田委員長：**セシウム137はLTDかなにかで判断したものでしょうか。

**〇事務局：**ブランク値の標準偏差の３倍を検出限界値と設定している分析機関が多いようです。

**〇村田委員長：**先程おっしゃった17核種はどこかに記載あるのでしょうか。

**〇事務局：**年報の24ページに記載されております。

**〇村田委員長：**この17核種は本文のどこかを参照しているのでしょうか。

**〇事務局：**17核種は2002年に環境放射線監視が始まった頃に設定されたもので、なぜこの17核種を選んだのかという根拠については、今手元に資料がありませんので、確認しておきます。

**〇村田委員長：**この17核種をどこかに記載できれば良いのですが、記載できないなら仕方ないですね。私は問題ないとは思うが、これは根拠が分からないという認識で良いでしょうか。

**〇事務局：**こちらも確認いたします。また、先程の質問において、検出目標値は、スライド13ページの大気浮遊じん中のセシウムで0.08mBq**/ｍ3**で、スライド16ページの排水中のセシウム137濃度に関しては、目標値は8mBq**/L**になっております。

**〇事務局：**今ご説明させてもらった検出目標値は、年報の46ページに一覧表という形で記載されています。

**〇村田委員長：** スライドに検出目標値を記載することは可能でしょうか。

**〇事務局：**可能です。

**〇村田委員長：**17核種はこのままで良いと思うが、分かるのであれば、用語集に記載しても良いと思う。今の17核種について私は若干の違和感を感じます。

**〇事務局：**経過を調べて、分かれば記載します。

**〇村田委員長：**スライド９ページの全α、全β濃度のピークの山は毎年こうなっていましたか。

**〇事務局：**概ね毎年同じで、地形的な特徴で、東大阪地域が盆地でこの季節は空気が滞留しやすく、濃度が上がりやすいと整理させてもらっています。

**〇村田委員長：**承知しました。こちらで公表お願いします。

**（３）令和５年度放射線管理等報告書について**

**【質疑応答】**

**〇村田委員長：**最初に京都大学の報告で、アルゴンが４月から６月が出てないのはなぜですか。

**〇京都大学：**その期間は運転しておりません。

**〇村田委員長：**承知しました。

**〇村田委員長：**近畿大学で、排水濃度が７月から９月が高い理由はなんですか。

**〇近畿大学：**排水を放出したのが、７月から９月でして、この時の値が高いわけではなくて、その他は排水放出の実績がなかったため値の記載がないです。記載している濃度は実測ですが、これはその濃度レベルからも自然起因に由来するものと推定され、濃度限度を十分に下回っているものとして排水しています。

**〇平尾委員：**原燃工の資料で、検出限界未満値のβやαが記載されていないが、どの核種、線種の検出限界値なのでしょうか。

**〇原子力燃料工業（株）：**われわれの事業所で取り扱っているものはウランです。

**〇平尾委員：**それであれば、まぎれのない様にそう書くのがよろしいかと思います。

**〇原子力燃料工業（株）：**府と協議したいと思います。

**〇村田委員長：**排気口１と２の大きな違いはなんですか。

**〇原子力燃料工業（株）：**規模や取り扱っているものが違います。排気口１はウラン加工のメインのプラントで、ウランが多く含まれているものを扱っています。排気口２は放射性廃棄物を扱っているところです。排気口１の方が、放射性物質が圧倒的に多いという違いがあります。

**（４）各原子力事業所における近況等について**

**【質疑応答】**

**〇原子力規制庁：**京都大学のKUCLの出力は100kwと記載ありますが、100wの間違いではないでしょうか。

**〇京都大学：**確認いたします。

**〇村田委員長：**藤川先生 最近漏水があって、運転は停止されているのでしょうか。

**〇京都大学：**現在は、原子力規制庁とお話しして対策をしつつ、早ければ８月19日に通水炉心というものを作りまして、特性運転をできるのかと話しています。

**〇村田委員長：**外部の方がもうしばらく使えないという認識でしょうか。

**〇京都大学：**それは原子力規制庁との兼ね合いもあるが、８月19日の特性運転をして、その時に２次冷却水の漏れがないかを確認して、徐々に決めます。

**〇村田委員長：**漏れた水はきれいなものなのでしょうか。

**〇京都大学：**はい、いずれもきれいであると判明しています。

**〇村田委員長：**承知いたしました。

**〇松浦委員：**原燃工のことに関して、工場の見学でトラブルの説明もありすごく分かりやすかったが、ただ溜まっていたウランの量がすごく多いです。例えば、１日に処理しているウランの量がこれぐらいであって、その内少しずつ溜まって、これぐらいの量になったという説明があれば良かったのかなと思います。

**〇村田委員長：**溜まり始めた期間は、30年ぐらいとおっしゃっておられましたか。

**〇原子力燃料工業（株）：**この建屋が1990年代に作られたので、大体30年使っていました。ウランの取扱量としては年間180トンぐらい。それが数グラムでも徐々に溜まっていきました。ダクトにここまで溜まっているという認識がなかったのは、考えが甘かったのかなと思います。

**〇村田委員長：**ウランの取扱量が多いので、少しずつ30年間で溜まったということですか。

**〇原子力燃料工業（株）：**30年という間で加工場の中でもロスがあり、廃棄物に混ざって、手袋に付いたりする等のロスがキロ単位で徐々に溜まり、発生しています。

**〇村田委員長：**この30年間で溜まったウランは天然ですか。

**〇原子力燃料工業（株）：**５%以下の濃縮ウランです。

**〇村田委員長：**濃縮度が違うものも混じっているのでしょうか。

**〇原子力燃料工業（株）：**４％台でいくつかの種類は混じっています。

**〇村田委員長：**他質問ありますでしょうか。

**〇村田委員長：**なければ、こちらで終了でよろしいでしょうか。

**〇事務局（司会）：**以上で本日の会議を終了とさせていただきます。本日はありがとうございました。